

MEDIA ONLY: Allison Peck, 202.633.0447
Ellie Reynolds, 202.633.0521
pressasia@si.edu

Jan 2014

ONLINE: www.asia.si.edu/press
@FreerSackler

Louise Allison Cort (ルイーズ・アリソン・コート)

学芸員 (陶磁担当)
国立スミソニアン協会
フリーア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリー

ルイーズ・コートは、国立スミソニアン協会の東洋美術館であるフリーア美術館とアーサー・M・サックラー・ギャラリーにて、陶磁を専門とする学芸員を務める。研究分野は、日本、東南アジア及び南アジアに於ける古今の陶磁、日本の竹細工と織物、そして茶の湯と多岐に渡る。

著書は「信楽：陶工の谷」(1979、再版 2000) オンラインカタログ「東南アジア本土の陶磁：フリーア美術館とアーサー・M・サックラー・ギャラリーの収蔵品」(2008)を、ジョージ・アシュレー・ウィリアムとデービット・P・レファスと共著。近著には、「プリの寺の陶工たち」(2013、プルナ・チャンドラ・ミシュラとの共著)がある。



また、本一冊分に相当する著作として、「イサム・ノグチと現代日本の陶磁：土との抱擁」(2003、バート・ウインター・タマキ共著)、「陶土に見るアジアの伝統」(2000、アン・ガンターとマスメ・ファハド共著)、「山里の竹籠職人」(1995、中村憲治共著)、「鬥彩：中国色絵磁器に見る装飾とその意図」(1993、ジャン・スチュワート共著)、そして「瀬戸と美濃」(1992)が挙げられる。2013年には「フリーア美術館とサックラー・ギャラリー所蔵の韓国美術」を主筆した。現在、フリーア美術館が購入した唐物茶壺、銘「千種」を取上げる特別展「千種と茶の湯」の開催(2014年2月)を、その図録と合わせて、アンドリュー・ワツキーと共に準備中である。

一方、東南アジア本土に於ける今日の村落を基盤とした土器と炆器の生産について、長年に亘り、リーダム・レファートと協力して記録調査を行ってきた。この調査研究は、西田東洋陶磁研究奨励基金と国立スミソニアン協会学術研究助成金の援助を受けて実施された。

2012年には、陶芸史研究における功績により第33回小山富士夫記念賞を受賞、また国立スミソニアン協会会長より卓越した研究者として表彰された。